

中倉茂和

小平市議会ニュース | 2024年Vol.2



誰ひとり取り残さない社会に

会派／市議会れいわ新選組
所属委員会／生活文教委員会
・公共施設マネジメント調査特別委員会
発行日／2024年6月21日
発行責任者／中倉茂和

report

議会で一般質問しました。

令和5年度12月と3月の定例会が閉会しましたのでご報告させていただきます。
まずは12月定例会(11月30日)、本会議での一般質問です。

ごあいさつ

昨年12月の決算特別委員会や今年3月の予算特別委員会を経て、1年間の議会の流れを経験しましたが、一般質問ではなかなか期待通りの答弁を引き出せなかったこともあり、より一層これからも日々切磋琢磨して、1つでも市民のみなさんの暮らしに役立つ政策を実現したいと思っています。

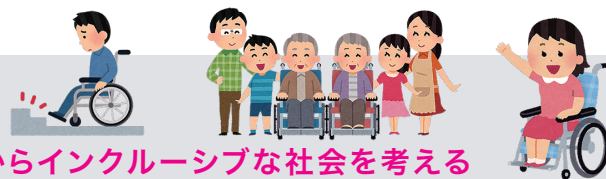
そのためにも、市に対する不満や不安、ご意見やご要望、お困り事など、みなさんの生の声をいつでも何でもお聞きかせください。

みなさんからのご連絡、お待ちしております。

プロフィール

1960年 山口県岩国市生まれ
1983年 福岡大学工学部機械工学科卒
1983年 コンピューター保守会社にてATM等の保守業務を担当
1988年 音楽業界にて女優兼歌手やフュージョン系バンドのマネージャーとして従事
2001年 印刷会社の製袋工場にて製造現場や工場長を経て品質管理や衛生管理を担当
2022年 元衆議院議員秘書
2023年 小平市議会議員選挙初当選
＜趣味＞ 音楽鑑賞
スポーツ観戦(野球・陸上)
＜好きな言葉＞ 一期一会

インクルーシブな社会を！



障害者権利条約の国連勧告からインクルーシブな社会を考える

Q 国連の障害者権利委員会が出した、インクルーシブ教育等に関する総括所見改善勧告に対する市の見解は。また、国や東京都からの通知はあったか。

A 国連の勧告に沿った改善を行うためには、法的枠組みの構築や障害者に関する制度改革など、国の主導による取組が必要。国や東京都からの通知は特にない。

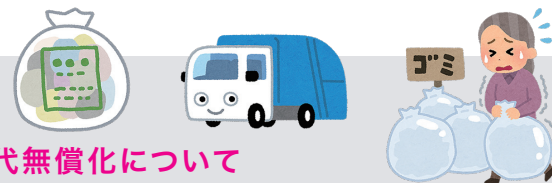
Q 特別支援学級の児童・生徒が、通常の学級の児童・生徒と交流する場はあるか。あれば、その頻度は。また、通常の学級に通っている知的障害のある児童・生徒は何人くらいか。

A 特別支援学級の児童・生徒が、通常の学級の児童・生徒と共に活動する交流や共同学習は全校で取り組んでいる。頻度は、児童・生徒の状況により異なるが、学校において計画し、当該児童・生徒や保護者等の合意形成の下、実施している。知的障害の診断があり、就学支援委員会に相談がなかったり、または、診断等を受けていない児童・生徒もいると推測されることから、人数の把握は困難であると認識している。

＜質問を終えて＞

障害者権利条約の国連勧告があり、少しずつではあるが国の対応も変化してきている。しかし、小平市としての動きは鈍く、インクルーシブ教育を含め、課題は多い。障害のあるなしに関わらず共に教育が受けられる環境作りをすることで誰もが平等に暮らせて、障害を持った方々が社会進出しやすい街づくりを目指します。

高いゴミ袋代を無償に！



ごみ対策の現状と家庭用ごみ袋代無償化について

Q 第四次一般廃棄物処理基本計画の策定に当たって、指定収集袋の手数料の検証結果は。

A ごみ減量の効果等の観点から検証し、廃棄物減量等推進審議会の意見を踏まえ、現時点の手数料は妥当と判断した。

Q ステーション方式から戸別収集に変わり、費用の変化は。

A 収集運搬委託の決算額の比較で、戸別収集を開始した令和元年度が11億5千6百93万円、平成30年度が9億7千7百57万円で、約18%の増である。

＜質問を終えて＞

ごみ袋有料化でごみの量が減っているが、それも市民の努力があったからこそ。生ごみを減らす食物資源循環事業も知っている人が2割強だったり、リサイクル率が多摩26市の中では低かったりと改善の余地はあり、よりごみの量を減らすことでごみ袋の無償化に繋げたい。最低でも多摩26市で一番高いごみ袋代の大幅な値下げを目指します。

3月定例会(2月28日)での一般質問は以下の2点になります。

子どもたちの 食の安心と安全を！



有機農業とオーガニック給食で子どもたちの食の安心と安全を

Q 小平市内で有機農業を行っている農家の割合は。

A 有機農業のみ実施している農家戸数は把握していない。JA東京むさしからは、ここ数年は約10戸、3%程度の割合で大きな変化はないと聞いている。

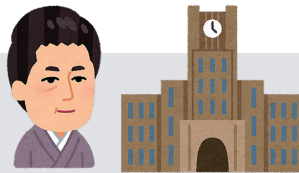
<質問を終えて>

国の「みどりの食料システム戦略」では、有機農業の耕作面積を2050年までに全体の25%、100万ヘクタールに拡大し、化学農薬の使用量をリスク換算で50%削減、化学肥料の使用量30%削減などの目標を掲げています。答弁にもあったように、課題はいくつかありますが、世界的に有機農業が拡大している中、小平市においても食の安心、安全を考えて有機農業に、また、こども達のためにもオーガニック給食にシフトすべきと考えます。

Q オーガニック給食の取組を推進できないか。

A 有機栽培等による農作物等は生産量が少なく、比較的高額なことなどから大量調理である学校給食には不向きである。安定した納入が可能な業者があれば活用を検討していく。

新紙幣発行を機に小平市を 知ってもらおう！



新紙幣、津田梅子さんと小平市のまちおこしを

Q 小平市には津田梅子が創立者である津田塾大学があるが、新紙幣発行に伴い市をアピールすることは考えているか。

A 新紙幣の発表を受け、市役所1階ロビー等で津田梅子のパネル掲示を行うなどしてきた。引き続き、発信していく。

<質問を終えて>

20年ぶりに発行される新紙幣、日本中で話題になること間違いなしです。新5千円札になる津田梅子さんは小平市にある津田塾大学の創立者、多摩地域であり名前の知られていない小平市をアピールするには絶好のチャンスです。テレビの旅番組や新札発行に絡めた歌詞を市民に募集して、小平市出身もしくは津田塾大学出身の作曲家やアーティストに曲をつけてもらいルネこだいらで大々的に発表するなどの企画案を示しました。

Q ふるさと納税の返礼品として、津田梅子を題材にしたものを用意する予定はあるか。

A 津田塾大学の創立120周年を記念して作られた焼き菓子が商品化されているため、今後、事業者と調整していく。

日々の活動



市政報告会



市民との意見交換会

ちょっとブレイク！

私が市議になってやりたいことの1つ、それはみなさんが住んでいて良かったと思われる街にしたいと言うことです。

人生100年時代、子育て世代はもちろんのこと、お年寄りが元気で暮らせる環境作りを進め、街に出掛けることが楽しくなるような提案をしていきたいと思っています。

元気なお年寄りが増えれば、街中も活気付き、若い世代との交流による相乗効果も生まれ、さらには経済効果も期待できます。

その結果として医療費を削減することができれば、財政負担の削減につながると思っています。

免税事業者はピンハネなんかしていない！

事務量ばかり増え、論理破綻しているインボイス制度は消費税と共に廃止を



消費者

支払い
本体価格 + 消費税分

消費者が事業者へ支払う消費税分は、商品や役務の提供に対する**対価の一部**であって、消費者からの**「預かり金」**ではない！



事業者

※消費税を支払っているのは事業者

納税

消費税

消費税相当の一部が手元に残っても**ピンハネではなく「益税」**は存在しない！

(東京地裁平成2年3月26日判決より)



国

[消費税法 第5条]

事業者は、国内において行った課税資産の譲渡等及び特定課税仕入れにつき、この法律により、**消費税を納める義務**がある。



令和5年2月10日の衆議院 内閣委員会でも、れいわ新選組 多ヶ谷亮議員が自民党 金子俊平財務大臣政務官から「**預かり金的な性格でありまして預かり税ではありません**」と「消費税は預かり金(税)でなく、益税も無い」という趣旨の政府答弁を引き出しています。



政府がインボイスの導入根拠に
挙げてきた「**税の公平性**」は
完全に論理破綻しているのでは？

お困りごとやご意見がありましたら
ぜひご連絡ください。

HP



X
(旧Twitter)



市民と一緒に歩む会 〒187-0031 東京都小平市小川東町5-17-26-410

☎ 090-7817-7037

✉ nakamowa1020@gmail.com